

未来の「知」を支える税金

清須市立西枇杷島中学校

3年 牧野 玲音

私は図書館が好きだ。なぜなら、小さな子が読む可愛い絵本から、専門家が読むようなマニアックな資料まで多種多様な本が揃っているからだ。図書館に一步足を踏み入れると、ひっそりとしているのにあたたかい空気に包まれ、とても心地よい。私は幼い頃からよく図書館に行き、本を借りている。清須市立図書館は、一度に十冊の本を二週間借りる事ができるので、借りた本を返却する日に、また新たに十冊の本を借り、常に図書館の本を借りて読み続けてきた。数えきれない程の本を借りて読んできたが、私は疑問に思うことがあった。なぜ、こんな魅力的な場所が無料で利用できるのだろうか、図書館の本は誰のお金で購入されたものなのであろうかと。

調べてみると、公立図書館は「図書館法第十七条」にある図書館無料の原則に基づき運営されているようだ。そして、それは税金によって、まかなわれているのだ。私たちの生活に欠かせない道路や信号、浄水施設、警察、消防署、医療など、税金は生活の安全や治安を維持し、健康や生活を守ることに使われている。さらに、医療や介護、子育てなど、命に関わる社会保障にはより多くの税金が使われていることが分かった。

しかし、それがなければ生活できない訳ではない図書館が、税金で運営されているのはどうしてだろう。私が思うには、図書館は心の豊かさを育むことができる場所だからだ。図書館は本を通して情報、文化、教養、知識を全ての人に届ける場所である。国民がより「知」について深く触れられる機会を、増やすという国の計らいを感じられた。

文部科学省のホームページに、図書館について、子どもの生きる力を養う、知の源泉である、読書を支える重要な知的インフラとして図書館が果たす役割が大きい、と書れていた。私の大好きな図書館が重要な場所として大切な税金が使われていると知り、とても嬉しく思った。

しかし、こんなにも素晴らしい場所である図書館が今、危機にさらされている。図書館にかかる予算が削られているのだ。それによって、図書館は環境や運営の維持が困難な状態に陥っているようだ。

コロナ過により、給付金や補助金という言葉がニュースでよく聞くようになった。これらは税金の使われ方としては、直接的で効果も分かりやすいかもしれない。それに比べると図書館に税金を使うことは誰に利益をもたらすのかが分かりにくい。しかし、国民の「知」がゆくゆくは国の利益となっていくと考えると、図書館を充実させる事は私たちの利益になるはずだ。このように、長いスパンで自分達や国の利益となるような税金の使われ方をきちんと理解し、目を向けていくべきである。税金を支払うことで、私たちは「知」を得ているのだから。